

2026 教室・講座・イベントの成果報告

主 催 者 名	神奈川県青少年科学体験活動推進協議会			
題 名・副 題	温暖化と海の間係を学ぼう ～熱気球の実験もやるよ～			
月 日・時 間	2026 年8月20日(木) 14:20～15:50			
開 催 場 所	神奈川県環境科学センター			
部会・講師名	会員教室 濱辺謙吉	参加数	16名	講師数 3名

写 真・画 像



熱気球の実験



入浴剤から二酸化炭素を取り出す実験

成 果 解 説

神奈川県環境科学センターにおいて、「令和8年度 子ども科学探検隊」の一部として、「温暖化と海の間係を学ぼう」と題した約90分の講座を行いました。

参加者は環境科学センターの施設見学の後、この講座を受講しました。参加者は小学校3年生から6年生までの皆さん16名でした。講座の最初に海のプラスチックごみの話をしました。多くのプラゴミが集まる太平洋ゴミベルト、世界の海に沈むゴーストギア、一般ゴミと一緒に野積みされているプラゴミ、人間の身体の内ちちからナノプラスチックが検出されていることを説明しました。

続いて、空気の組成、地球温暖化の仕組み、二酸化炭素の生成原因の話を経て、気体が温まると軽くなる性質を利用した熱気球の実験、二酸化炭素の性質を知るために、その重さを空気と比べる実験、石灰水との反応、呼気に含まれる二酸化炭素の確認、水に対する溶解性と pH の変化、海水に呼気を吹き込んで、その可逆的な溶解性と pH 変化の実験、海水が多くの二酸化炭素を吸収すると酸性化し、甲殻類やサンゴの生育に悪影響を及ぼすこと等も学びました。入浴剤の中から二酸化炭素を取り出す実験、ロウソクの燃焼に伴う二酸化炭素の発生の実験等、盛り沢山の実験を行いました。

海が陸と同様に多くの二酸化炭素を吸収し、海草や海藻、マングローブ、干潟の生き物たちがブルーカーボンとして二酸化炭素を固定化していること等を、子どもたちは集中力を途切れさせることなく学んでくれました。